

## 「賀古駅家、発掘ものがたり」 2 <先立つもの>

発掘調査にはいろんな費用が必要となります。発掘作業そのものとしては、土を掘る作業員さんの人件費で、これが大半を占めます。それ以外としては意外と忘れられるのが写真代。

土器や瓦などの遺物は持ち帰ればいつでも見ることができますが、どのように出土したのか、どんな建物跡だったのか、といった「状態」については図と写真でしか表現できません。最近ではデジタルカメラの普及で費用がかからないように思えますが、「これはっ！」という時は大型カメラ（卒業写真などで使う黒い布を被って写すカメラ）を使います。調査成果は図と写真が唯一の証拠となるので、調査を行った遺跡の最後の姿として正確に、詳細な記録が必要となります。

調査が終了すれば、成果を「発掘調査報告書」という印刷物にまとめ、成果を共有できるようにしなければなりません。そのためには出土品を洗い、復元し、図を描き、製図する。さらには見つかった建物跡、出土状況、出土品に関する図や写真、そして、それを詳述した原稿。こうした作業にも人件費が必要となります。編集が終われば、これを約300部印刷し、全国や県下の図書館、教育委員会に送付し、公開します。こうした費用も発掘調査費の一部として必要となります。

こうして、今回行った賀古駅家の発掘調査についても、図書館で借りさえすれば家に居ながら調査担当者と同じ成果を手にすることができるわけです。

今回の賀古駅家の発掘調査は開発などによって「壊れるから調査する」のではなく、「重要な遺跡なので、その性格、広がりや事前を知る必要があるから調査する」という、いわば「攻め」の調査でした。

そこで、兵庫県立考古博物館では、国の補助を受けて「古代官道の調査研究」を立ち上げ、その一環として賀古駅家の発掘調査を行うことになりました。

さあ、先立つものは整いました。あとは予算内で効果を上げるために、どこをどう掘るのか、に絞られました。

